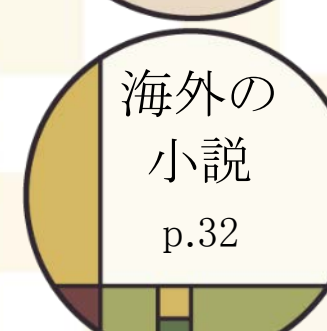
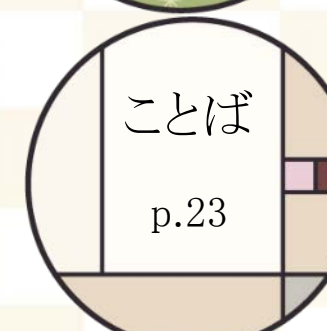
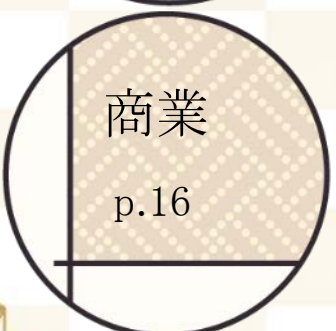
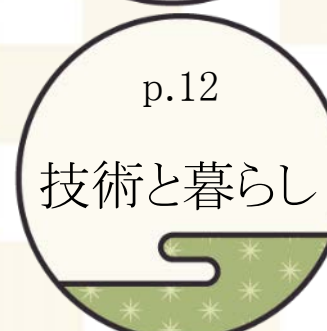
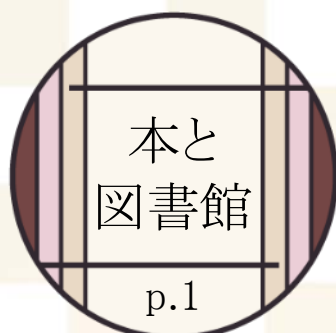




松戸市立図書館

図書館員の おすすめする一冊

令和元年度版(令和2年1月発行)





司書の仕事ってなんだろう。本の貸出？返却？いえいえ、それだけではないのです。本作品を読むと、新米司書として頑張る葵（あおい）ひなこの姿を通して、司書の仕事とはどういうものか垣間見ることができます。

本当にリアルな司書の仕事描かれているので、休みの日に読むと思わず仕事を思い出して冷汗が出たり…。漫画形式なので、すごく読みやすいですよ。

『夜明けの図書館[1]』

桒納 タオ // 著, 双葉社, 2011 年, 978-4-575-33462-3

司書が皆さんの調べものをお手伝いする、レファレンス・サービスを取り上げたことで話題になった漫画です。現在 6 巻まで刊行中。主人公と図書館を訪れる人々との交流に、心温まるストーリーです。

『夜明けの図書館[6]』ほか

桒納 タオ // 著, 双葉社, 2019 年, 978-4-575-33781-5



国境、宗教、性別、カースト・・・私達は生まれた時から境界に包囲され、窮屈とも感じる世界で生きることを余儀なくされます。境界の狭間で揺れ動き、葛藤することもあるでしょう。一方で、境界の内側にいることで得られる安心や、境界があるからこそ受け入れられる違いもあります。時に憎しみを、時に安堵を抱かせる境界について、考えるための本がここに 있습니다。

『ATLANTIS Issue1(2018July) 境界』

ブートレグ, 2018 年, 978-4-904635-70-4



死生観、お持ちですか



子どもの頃「死んだらどうなるの？」と大人に尋ねたことはありませんか？
「死ぬのが怖い」という直感は小さな子どもも持っています。大人になってからも、日常の中に死が持ち込まれると、強い不安や恐怖を覚え、目をそらしがちになります。

この本は、死の恐怖について、哲学、宗教、進化生物学、脳科学などあらゆる視点から考察することで、「今」鮮烈に生きることに意味づけをしようとしています。学問的見解や著者の主観によって逆に感性が際立ち、無に帰す虚しさを感じることもあるかもしれませんが、自身の死生観と向き合うきっかけになるのではないのでしょうか。

『「死ぬのが怖い」とはどういうことか』

前野 隆司 // 著, 講談社, 2013 年, 978-4-06-217742-9

人生 100 年時代を考える



寿命が100歳になったらどんな人生になるのか。この本はさまざまな将来予測を示し、分かりやすく年代を分けて具体例を示しています。この本を読むと60歳で現役を引退するという一般的な人生設計が、もう成り立たなくなりつつあることが実感できます。

本の中で想定された未来が絶対なのではなく、日本では当てはまらないこともあるかもしれません。しかし、寿命が延びることによって、どのような変化が起こるのかを実感できる本です。今後のあなたの人生設計を考えるのにも最適な一冊でしょう。

『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』

リンダ グラットンほか // 著, 東洋経済新報社, 2016 年, 978-4-492-53387-1

心にゆとりがなくなったときにおすすめ！



心が温まり、心にゆとりができる一冊です！

『今日も明日も上機嫌。 モタさんの“言葉”』
斎藤 茂太 // 文, 松本 春野 // 絵, 講談社, 2014 年,
978-4-06-219129-6

こちらもいかが？



『今日も明日も上機嫌。』は、斎藤茂太さんのエッセイを朗読するテレビ番組「モタさんの“言葉”」の書籍化第3弾。斎藤茂太さんは、精神科医でありエッセイストでもあります。第1弾と第2弾も、疲れた心に沁みる言葉が書かれています。絵本作家の松本春野さんが描く、やさしいイラストにも癒されます。



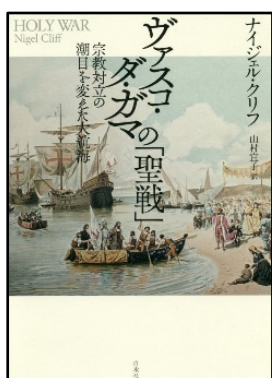
『モタさんの“言葉” [1]』『モタさんの“言葉” [2]』
斎藤 茂太 // 文, 松本 春野 // 絵, 講談社,
[1] 2012 年, 978-4-06-218214-0 / [2] 2013 年,
978-4-06-218761-9



世界を見る



海を越えて仕掛ける、キリスト教社会の大反撃



イスラムのヨーロッパ侵略、十字軍、レコンキスタなど、歴史の中で幾度となく繰り返されてきたキリスト教とイスラムの衝突。地方行政長官の息子ヴァスコ・ダ・ガマは、その気運の中高まった「アジアを含むキリスト社会によるイスラム社会の包囲網の形成」という宿願を果たすため、インド航路開拓の司令官に選ばれました。幾多の犠牲の果てに、インドを目指すガマの「聖戦」が今始まります。

イスラムの誕生から始まる壮大な歴史の物語と、宗教対立の文脈で語られる「大航海時代」を生きた男たちの生き様をこの一冊に。

『ヴァスコ・ダ・ガマの「聖戦」 宗教対立の潮目を変えた大航海』
ナイジェル クリフ//著, 白水社, 2018年, 978-4-560-09677-2

脇役たちが織りなす、新たなヴェルサイユ宮殿



ヴェルサイユ宮殿と言えば、マリー・アントワネットに代表されるような豪勢な世界を想像するかもしれませんが、この本に登場するのは、その豪勢な世界の陰に隠れている人々です。華麗な王宮の生活を支えた者や、逆に多くの貴族を騙したり、盗みを働いた者など、バラエティに富んだ人々が登場し、ヴェルサイユ宮殿の様々な一面が浮かび上がってきます。華麗なだけではない、ヴェルサイユ宮殿を取り巻く色とりどりの世界を、ぜひお楽しみください。

『ヴェルサイユ宮殿 影の主役たち 世界一華麗な王宮を支えた人々』
ジャック ルヴロン//著, 河出書房新社, 2019年, 978-4-309-22762-7

ご同輩、自分探しもほどほどに



日々の生活のなかで、茫洋とした不安を抱えながら、自分にはもっと他の生き方があるのじゃないか？なんて、何かやり残した気持ちにふとなった時、手に取って読んでほしい、パンチの利いたノンフィクションです。同名の「in to the wild」映画もおススメです。

『荒野へ』

ジョン クラカワー // 著, 集英社, 1997 年, 4-08-773266-5

絵本の世界へ迷い込んでみませんか



世の中にはこんな可愛く色彩豊かな美しい場所が本当に実在するんだと驚きます。眺めているだけで笑顔になれます。

『まるで童話のような、世界のかわいい村と美しい街』
パイインターナショナル, 2015 年, 978-4-7562-4693-6

こちらもいかが？



世界の美しい街や不思議な風景を集めた写真集は他にもあります。ページをめくりながら、行ってみたい国に思いを馳せるのも良いかもしれません。

『世界の路地』

PIE BOOKS // 編著, パイインターナショナル, 2016 年,
978-4-7562-4831-2

『世にもふしぎな極上ワンダーランド』

渋川 育由 // 編, 河出書房新社, 2015 年,
978-4-3092-7565-9





子どもから大人まで学べる政治入門



世界 14 カ国で読まれているだけあり、少し難しい「政治」について色んな視点から学べて、とても勉強になりました。大人になって今さら聞けないこと、大人になっても実は知らなかったことなど、政治のシステムや政府のかたち、政治のイデオロギーや様々な社会問題まで、幅広く学べます。テーマごとにイラスト付きでわかりやすく解説されているので、ぜひ皆さんも読んでみませんか？

『図解はじめて学ぶみんなの政治』
アレックス フリスほか//文, 晶文社, 2019 年, 978-4-7949-6999-6



「怖かったのだ、彼が」



人を殺めた人間。一度でなく、何度も。彼らは何を考え、なぜそんな行動をしたのだろうか。本書は、数々の殺人事件取材してきたフリーライターの小野一光氏が、犯罪史に残るような 10 の連続殺人事件を徹底的に取材したルポルタージュです。拘置所での面会や関係者へのインタビューを通し、犯人の人間像を紐解くとともに、消えることのない遺族の怒り・悲しみを伝えます。

事実は小説より奇なり。読後、背筋がヒヤリと寒くなる。そんな一冊です。

『連続殺人犯』
小野 一光//著, 文藝春秋, 2019 年, 978-4-16-791231-4

どこの国とも違う日本の未来って・・・



表紙の色彩はグレーと赤と白と黒。赤く目立った西暦年と想像される事柄が衝撃的で、思わず手に取り読破した 1 冊です。

日本が人口減少している・・・、とお分かりの方は多数いらっしゃると思いますが、2065 年まで約 45 年、何が起ころか。自分の身近の変化が具体的で怖すぎました。何気なく、なんとなく、目の前のことで過ごしている彼方に。ちょっと視野が広がるかもしれません。

『未来の年表[1] 人口減少日本でこれから起こること』
河合 雅司 // 著, 講談社, 2017 年, 978-4-06-288431-0

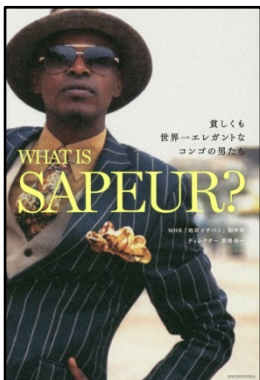
こちらもいかが？



『未来の年表[1]』には続刊があります。2 巻では、これから私たちの周りで起こる問題、その対策として私たちにできることが書かれています。目を背けたくなる未来と向き合う準備はいいですか？

『未来の年表[2] 人口減少日本であなたに起きること』
河合 雅司 // 著, 講談社, 2018 年, 978-4-0651-1768-2

世界一のジェントルマンはコンゴにいた！

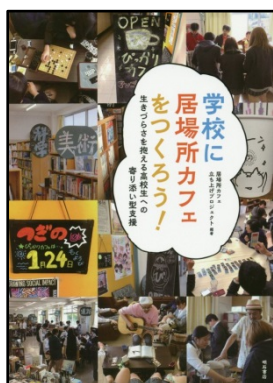


アフリカ・コンゴで高級なスーツを身に纏い、颯爽と歩く男たち。彼らは決して裕福ではない。貧しい生活を送りながら、長時間働いて、やっと貯めたお金でスーツを買っているのだ。なぜそうまでしてお洒落にこだわるのか。それは、コンゴの人々が平和を願う気持ちに由来する。

人を尊重し、人から尊敬されるような存在であること。このようなサプールの生き様が、暴力や戦争に対する反抗であり、平和の象徴なのだ。この本を読めば、きっとあなたもサプールのファンになるだろう。

『WHAT IS SAPEUR? 貧しくも世界一エレガントなコンゴの男たち』
影嶋 裕一 // 著, 祥伝社, 2015 年, 978-4-396-61547-5

生きづらさを抱える高校生への寄り添い型支援



クラスの教室に居場所がなくなってしまったとき、子どもたちはどこへ行き、誰に助けを求めれば良いのでしょうか。地域若者サポートステーションや子ども食堂を街中に作ったとしても、そこを訪れる心理的なハードルが高く、社会から孤立してしまう子どもたちがいます。

そんな時、サードプレイスとして、学校の中にカフェがあったとしたら、子どもたちの居場所づくりやその後の支援につなげられるのではないかな。この本には、そうした居場所カフェづくりの実践例とヒントが詰まっています。

『学校に居場所カフェをつくろう！』

生きづらさを抱える高校生への寄り添い型支援』

居場所カフェ立ち上げプロジェクト // 編著, 明石書店, 2019 年, 978-4-7503-4875-9

こちらはいかが？



スクールソーシャルワーカーという専門職をご存知ですか？教育だけでなく社会福祉の知識や技術を持ち、いじめや貧困など、問題を抱える児童生徒をサポートする仕事です。児童生徒や保護者、学校関係者と協働し、児童生徒を取り巻く環境を改善していきます。児童生徒が安心できる環境づくりには、過ごしやすい居場所と寄り添う人、どちらも大切です。

『いじめ・虐待・貧困から子どもたちを守るための
Q&A100 スクールソーシャルワーカーの実践から』

岩田 美香ほか // 編著, 生活書院, 2019 年,
978-4-8650-0098-6

『スクールソーシャルワーカーのしごと
学校ソーシャルワーク実践ガイド』

門田 光司ほか // 著, 中央法規出版, 2009 年,
978-4-8058-3209-7



「私はガラスの天井を突き破ったのよ」



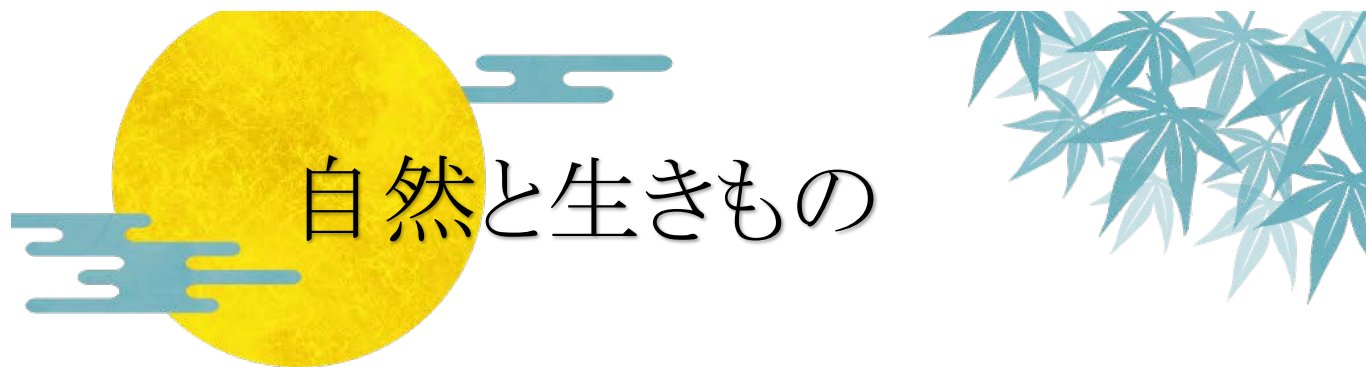
対象が「困っている時」を狙え CIA の人心掌握実だそう。大正生まれのレッキとした日本人、現代で言ったら「バリキャリ女子」の元祖のような人物なのである。

なぜアメリカに渡り、結婚し CIA で働くようになったのか。

本人が 2010 年に 88 才で亡くなり、現在関係者は殆ど生存していないにも関わらず、ジャーナリストの著者は事実と想像力を駆使して 1 冊の本とし、彼女の功績をこの世に知らしめたことはすごいことだと思う。ただ、身近に CIA のスパイや協力者が存在していることも考えると怖い本かもしれない。

『CIA スパイ養成官 キヨ・ヤマダの対日工作』

山田 敏弘 // 著, 新潮社, 2019 年, 978-4-103-34772-9



自然と生きもの

古生物を妙に身近に感じる本



三葉虫、ウミサソリ、アノマロカリス・・・古生物好きなら、名前を聞いただけで「ああ、あれね！」と姿形をイメージできる方もいるでしょう。そんなあなたに、ひとつ質問です。

「古生物の大きさ、ご存知ですか？」

この本では、現代の日常的な風景に古生物が紛れ込んでいます。なぜこんなところに古生物が！？というシュールさを楽しみつつ、あの生物は魚の切り身くらいか・・・とリアルなサイズ感を知ることができます。古生物が妙にリアルに、身近に感じられる1冊です。

『リアルサイズ古生物図鑑 古生代編 古生物のサイズが実感できる！』

土屋 健//著, 技術評論社, 2018年, 978-4-774-19913-9

こちらもいかが？



リアルサイズ古生物図鑑には、中生代編もあります。古生代編を読んで、古生物たちのユーモアに魅了されてしまった方はぜひ、合わせてお楽しみください。

『リアルサイズ古生物図鑑 中生代編 古生物のサイズが実感できる！』

土屋 健//著, 技術評論社, 2019年, 978-4-297-10656-0

脱・不健康！目指せ・長寿！



季節の変わり目に体調を崩したり、風邪を引きやすかったり・・・そんな自分と決別したい！元気になりたい！と思う全ての人に、おススメしたい1冊。健康法の本はたくさん出版されていますが、こちらは今も読み継がれる古典書。下男が出てくるなどの今の生活様式との違いも、面白いところ。

あなたが普段していた生活習慣を打ち砕く、養生訓が飛び出してきます。春夏秋冬丸1年を過ぎたころ、健康体に生まれ変わっていること信じて、今日も養生に努めます。

『養生訓 全現代語訳』

貝原 益軒 // 著, 講談社, 1982 年, 4-06-158577-0

こちらもいかが？



養生思想の集大成である養生訓。この大作がどのように書かれたのか、興味を持った方におすすめなのがこの1冊。貝原益軒が中国の古典文献から学び、どのように養生訓を書き記していったかがわかります。

『養生の智慧と気思想 貝原益軒に至る未病の文化を読む』

謝 心範 // 著, 講談社, 2018 年, 978-4-065-13944-8



養生訓と同じように、江戸時代に食養生について書かれた本があります。この食育本「和歌食物本草」から、現在も食べられているものを紹介し、解説したのがこの1冊です。食養生に興味のある方はぜひ。

『いろはに食養生 薬膳で読み解く江戸の健康知恵袋』

武 鈴子 // 著, 家の光協会, 2008 年, 978-4-259-56222-9



江戸時代の町の様子ที่わかる「廻町照覧絵巻」を見ながら、江戸時代の健康法や健康食を知ることができます。

『絵でみる江戸の町とくらし図鑑 商店と養生編』

善養寺 ススム // 文・絵, 廣済堂出版, 2018 年, 978-4-331-52182-3





驚きと発見のワンダーランドがいっぱい



大人も子どもも見て、学んで、体験できて、試食・試飲、おみやげも…。絶対に
行きたくなる工場や施設が盛りだくさん！ジャンル別に紹介されています。詳しい
インフォメーションも載っているので、事前に見学の流れや注目ポイントを確認で
きて行き先選びに活用できる一冊です。

『工場見学社会科見学 首都圏 [2019]』

昭文社, 2019 年, 978-4-398-28868-4

こちらもいかが？



他にも、工場見学におすすめのスポットを紹介した本があります。日常で使われている商品がどのように作
られているのか、気になったあなたは工場見学に行ってみてはどうでしょう？大人向けの社会科見学のようで、
きっと楽しめるはず。

『工場見学へ行こう 首都圏』

JTB パブリッシング, 2018 年, 978-4-533-12295-8

『関東大人のための工場見学＆社会科見学』

TOKYO 休日ネットワーク // 著, メイツ出版, 2012 年, 978-4-780-41165-2



知られざる工事写真の世界



あなたは写真をどういった時に撮りますか？ふとした瞬間に、何かの記念に、おいしいものを食べる前に etc…この本は上記の理由ではなく、工事の証拠として、技術伝承として、作品の記録として写真を撮るための心構えを書いています。

一般的な写真の撮り方もさることながら、公共工事に提出する際に気を付けなければいけないコツやわかりやすい撮り方等も子細に書かれており、工事業者以外の方が読んでも楽しめる一冊です。

『最高の工事写真の撮り方』

中野 裕 // 著, エクスナレッジ, 2015 年, 978-4-7678-2057-6

思わず虫めがねで見たくなる！



聖堂、宮殿、図書館など、すばらしい室内装飾の写真集です。細かい装飾を見ていただきたいので、是非虫めがねをご用意ください。

『世界のすごい室内装飾』

パイインターナショナル, 2015 年, 978-4-7562-4622-6

こちらもいかが？



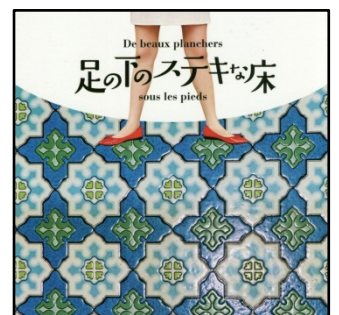
室内装飾のうち、天井や床の装飾をまとめた写真集もあります。教会の鮮やかな天井画やおしゃれなタイルを眺めて、その美しさに浸る贅沢な時間のお供に。

『世界で一番美しい天井装飾』

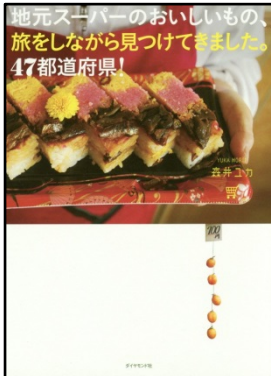
中島 智章 // 監修, エクスナレッジ, 2015 年, 978-4-767-82002-6

『足の下ステキな床』

今井 晶子ほか // 著, グラフィック社, 2017 年, 978-4-766-13029-4



旅行×スーパー＝∞？



旅行の楽しみといえばその土地ならではの観光スポット巡りや郷土料理に舌鼓を打つなどが挙げられると思います。ただ、数日観光で滞在してもその土地に住む方が普段食べているものを知るのは難しいのではないのでしょうか。

そんな時に重宝するのがこの本で、各県発祥のスーパーを巡り、お惣菜売り場で買ったものをその日のディナーとして食しており、地元の人々の生活に根付いた食べものがたくさん掲載されています。この本を読んで旅行先でスーパーに行ってみてはいかがでしょうか？

『地元スーパーの美味しいもの、旅をしながら見つけてきました。47 都道府県!』
森井 ユカ// 著, ダイヤモンド・ビッグ社, 2017 年, 978-4-478-06004-9

5 年後に直面するモノとの戦い



自分の家を片づけるのも大変ですが、親の家を片づけるのは、もっと大変です。この本は、プロだからこそ言える片づけのノウハウが書かれています。自分の家と親の家の片づけ方の違い、親言っではいけない言葉などが書かれています。参考になると思います。

『片づけなきゃ親の家片づけたい自分の家
何千件という片づけを経験したプロが教える!』

杉之原 富士子// 著, 講談社, 2014 年, 978-4-06-218981-1

ドイツやウィーンのおいしいお菓子を食いたい！



本書は日本でよく見かけるようなメジャーなお菓子から、中々見かけないマイナーなお菓子まで、ドイツ・ウィーンのお菓子の作り方を幅広く丁寧に紹介しています。

たとえ作る気がなくても、作れなくても、お菓子の写真が大きく豊富に掲載されているので、それを見ながら味を想像してみたり、作っていそうなお店を探して実際に行ってみたり・・・という楽しみ方もできます。お菓子好きの方はぜひ一読ください。

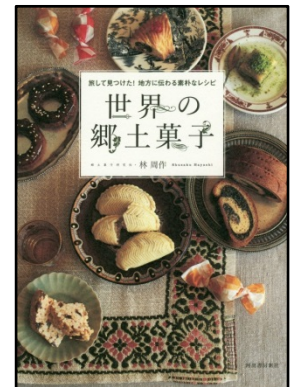
『ドイツ菓子・ウィーン菓子 基本の技法と伝統のスタイル』

長森 昭雄ほか // 著, 学研教育出版, 2014 年, 978-4-05-800308-4

こちらはいかが？



海外のお菓子やおやつ作りに興味を持った方には、こちらの本もおすすめ。世界各地を自転車で旅した日記と、各地で見つけた郷土菓子が紹介されています。日本で作れるようにアレンジしたレシピもあるので、ぜひ挑戦してみてください。



『世界の郷土菓子 旅して見つけた！地方に伝わる素朴なレシピ』

郷土菓子研究者 林周作 // 著, 河出書房新社, 2017 年, 978-4-309-28628-0

そのほか、イギリスやフランスなど、各国のお菓子を紹介した本があります。気になる地域や、気になるお菓子がある方は、自分の興味にあった 1 冊を探してみてもいいでしょう？もちろん、図書館職員にお声かけくだされば、一緒にお探しします。お気軽にご相談を。

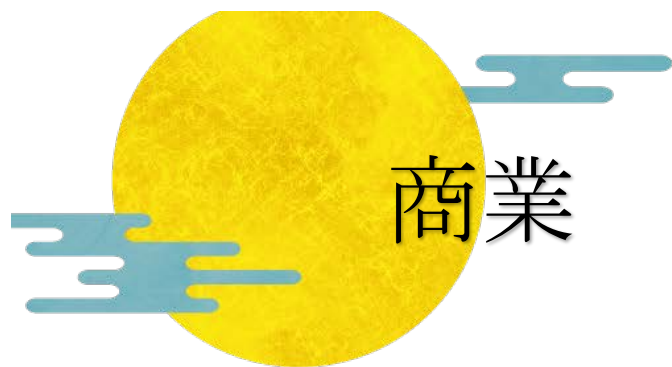
『おうちでつくるイギリス菓子』

安田 真理子 // 著, ソーテック社, 2018 年, 978-4-800-73012-1

『フランス伝統菓子図鑑』

山本 ゆりこ // 著, 誠文堂新光社, 2019 年, 978-4-416-51964-6





お気に入りの広告コピーを見つけませんか？



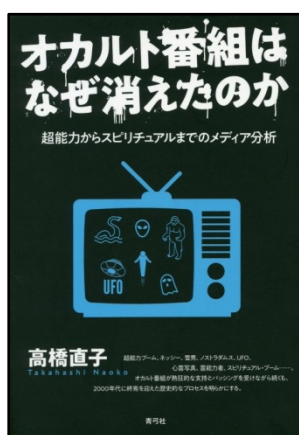
0～100 才まで、それぞれの年齢にぴったりの広告コピーが並んでいます。過去を振り返って「こんなことあったなあ。」と恋しくなったり、未来を想像してわくわくしたりします。広告情報も載っているので広告主を想像しながら読むのも面白いかもしれません。なかには、広告主が意外だったりしますよ。

あなたのお気に入りの広告コピーがきっと見つかるはずです！広告コピーで、時間旅行を楽しみませんか？

『ずっと読みたい 0 才から 100 才の広告コピー』

WRITES PUBLISHING// 編, ライツ社, 2019 年, 978-4-90-904418-1

オカルト番組が少なくなった理由とは



1960 年に放送されていた「万国びっくりショー」の心霊手術から、1990 年代の霊能者 VS 科学の検証番組、2000 年代のスピリチュアル番組など、オカルト番組等の歴史を追った一冊です。

特筆すべきは、メディアがどのように上記の番組を放送してきたか、また視聴者に対してどういう意図で語りかけてきたかを当時の雑誌や番組の書き起こし等の参考文献を引用して解説しているのは一見の価値があります。オカルト番組が苦手な方にもおすすめです。

『オカルト番組はなぜ消えたのか』

超能力からスピリチュアルまでのメディア分析』

高橋 直子// 著, 青弓社, 2019 年, 978-4-7872-3448-3

聖地巡礼ビジネスのいまを追う



アニメや漫画、小説、映画の舞台となった場所に赴く聖地巡礼。1990年代からあった巡礼がいかにして生まれたのかを紐解いたのがこの1冊です。

前著『アニメ聖地巡礼の観光社会学』が2000年代中心だったのに対して、この本ではポケモンGOや刀剣乱舞、ラブライブサンシャイン、艦隊これくしょん等、作品も2010年代のものを中心に言及しています。また、らき☆すたと鷲宮とのこれまでの歩みなど、コンテンツと地域がどのように融和していったかという描写は非常に興味深かったです。聖地巡礼について興味がある方はぜひお読みください。

『巡礼ビジネス ポップカルチャーが観光資産になる時代』

岡本 健 // [著], KADOKAWA, 2018年, 978-4-04-082259-4

こちらはいかが？



紹介文に出てくる『アニメ聖地巡礼の観光社会学』がこちら。『巡礼ビジネス』と同様、聖地巡礼について、主に観光という視点から研究されています。聖地巡礼をもっと深く知りたいと思った方は、合わせて読んでみてください。

『アニメ聖地巡礼の観光社会学』

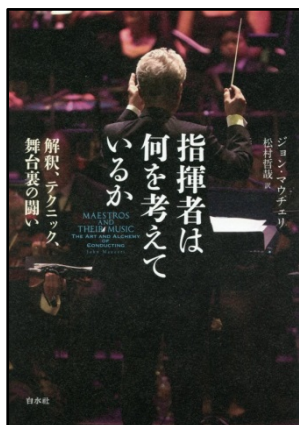
コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析』

岡本 健 // 著, 法律文化社, 2018年, 978-4-589-03957-6





指揮者業という、魔法の裏側



あまり詳しくないのですが、最近クラシックコンサートに足を運ぶようになりました。そうすると気になる（というよりも分からない）のが、指揮者の仕事。指揮者によって同じ曲でもテンポが違ったり、指揮をするスタイルや印象に違いがあるのはなぜなのでしょう？

著者はバーンスタインに師事したアメリカの指揮者。同業者ならではの視点で、バーンスタインはもちろん、カラヤンや小澤征爾さんのお話など、指揮者の裏事情にも触れています。歴史的な変遷やエピソードも面白く、次にコンサートに行くのが楽しみになります。

『指揮者は何を考えているか 解釈、テクニク、舞台裏の闘い』
ジョン マウチェリ // 著, 白水社, 2019 年, 978-4-560-09709-0

コンサートの光の演出意図を知る



コンサートに行くと、その曲の歌詞の内容に合わせてきらびやかなレーザービームや火柱、スモークがステージや観客席に降り注ぐことが多く見受けられます。この本はそんな演出の意図や構成、全体のバランスをどうとっていくかを書いています。

内容的にはPAを目指す方向けではあるものの、コンサートでのライティングのみならず、1つの楽曲中にどう照明の色を変え観客を盛り上げるかまで言及する本はほぼないと言っても過言ではありません。コンサートの光について気になる方に読んでいただきたい一冊です。

『コンサートライティング入門』
加藤 憲治 // 著, レクラム社, 2014 年, 978-4-947575-34-0

帝政末期から革命、戦後と1世紀を生き抜いたバレリーナ



昨年公開のロシア映画「マチルダ」のモデル、マチルダ・クシェシンスカヤの回想録で、映画の何倍も面白くワクワクします。

皇太子だったころのニコライ2世との切ない恋は序章に過ぎず、バレエ芸術の道を極め、プリマに昇進し、大公の愛人として権勢を得て、さらに若い別の大公と恋に落ち、未婚のまま出産、2ヶ月後には舞台に復帰…とあまりの強さにめまいがしてきます。

ロシア革命で命からがらパリに亡命した彼女は、失意のうちに生きたか？否！！後半生を知るとじわじわ感動してしまいます。バレエ史としても貴重な1冊です。

『ペテルブルグのバレリーナ クシェシンスカヤの回想録』
マチルダ F.クシェシンスカヤ//著, 平凡社, 2012年, 978-4-582-83483-3

絶景×映画



この本を開くと、「ハリー・ポッター」や「スター・ウォーズ」などの有名な映画のロケ地や舞台になった美しい絶景が広がっています。映画ごとに分かれているため、好きな映画の絶景を見る楽しみもありますが、知らない映画の絶景を見たら、その映画を観たくなる楽しみもあるかも…？

映画の情報とともに、その場所の説明が載っているため、この本を読んだ後、あなたはきっと旅に出たくなるはずです。

Google Maps のQRコード付き。データ:2018年12月現在。

『海外名作映画と巡る世界の絶景』
インプレス, 2019年, 978-4-295-00564-3

ロードレースを知っていますか？



バイクで走るという、一見シンプルに見えるロードレースは、その実とても過酷なスポーツとされています。そのあまりの過酷さに、1つのレースを人生に例える選手もいるそうです。

この本では、2013年に全日本選手権をリタイアし、一度は引退を考えながらも舞い戻ってきた佐野選手を筆頭に、2014年の全日本選手権に全てをかけて挑む選手たちの激闘が描かれます。全身全霊で「逃げる」選手たちの「真っ向勝負」と、思わず心が躍るロードレースというスポーツの奥深さを、ぜひ体感してみてください。

『エスケープ 2014年全日本選手権ロードレース』
佐藤 喬 // 著, 辰巳出版, 2015年, 978-4-7778-1507-4

装蹄師って？



現在はメジャースポーツとして認識されている競馬。そこには騎手や調教師、厩務員など多くの人に関わっていますが、その中に「装蹄師」という聞きなれない職業があります。

この「装蹄師」は全くといって良いほど表には出てこない地味な職業ですが、なくては競馬が成立しないほど重要でもあります。馬1頭1頭にあわせて1ミリ単位で試行錯誤しながら進めていく仕事ぶりなど、その一人者である装蹄師が書いたこの本を読めば、いつもとは違った視点で競馬を楽しめるのではないのでしょうか。

『ガラリー変！競馬の見方』
西内 荘 // 著, 東邦出版, 2019年, 978-4-8094-1680-4

東の羽生・西の村山



幼少期から難病「ネフローゼ」という難病を患っているながら将棋に没頭し、師匠や両親の反対を押し切って上京しプロの棋士となり、病と闘いながら、将棋の最高峰 A 級に在籍し、平成 10 年に 29 歳という若さでこの世を去った村山聖(さとし)さんの自叙伝です。

人生のすべてを将棋にかけたく短く生き切ったのはみごとだと思います。この小説はテレビ・映画化されています。あなたなら本と映像どちらを先に見ますか。

『聖の青春』

大崎 善生 // 著, 講談社, 2000 年, 4-06-210008-8

「運氣」、「流れ」は存在しない！



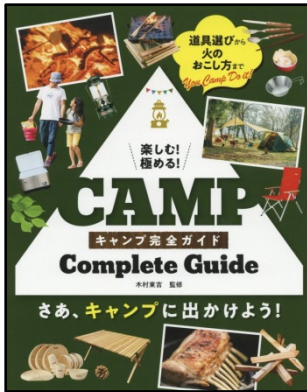
ボードゲームとしての麻雀の魅力が再認識されつつある近年。麻雀には、年齢の壁なく長く続けられるという大きな魅力があります。さて、本書はそんな麻雀に革命を起こした一冊。とにかく科学的に麻雀を分析し、本当に覚えるべき戦術を指南してくれます。

「流れ理論」、「運氣理論」など、言語化できない麻雀戦術が数多く存在する中で、科学による裏付けのある戦術は説得力が段違い！本書を読みこんで、友達に差をつけましょう！

『おしえて！科学する麻雀』

とつげき東北 // 著, 洋泉社, 2017 年, 978-4-8003-1345-4

今年こそキャンプデビュー！



新しい年、新しい何かを始めてみようと思っているなら、キャンプはいかがですか。

本書はキャンプに必要な道具、テントの張り方、キャンプ料理のレシピ、焚き火の楽しみ方等を初心者向けにわかりやすく解説しています。家族と恋人と友達と1人でも楽しめるキャンプに、本書を読むと行きたくなること間違いなしです。キャンプデビューの第1歩にぜひご活用ください！

『楽しむ！極める！キャンプ完全ガイド
道具選びから火の起こし方まで さあ、キャンプにでかけよう！』
木村 東吉//監修, 西東社, 2018年, 978-4-7916-2611-3

こちらはいかが？



こちら、キャンプを始めてみようと考えている方におすすめです。女子だけでも、1人でも、キャンプが簡単に楽しめるコツをイラストとマンガで紹介しています。

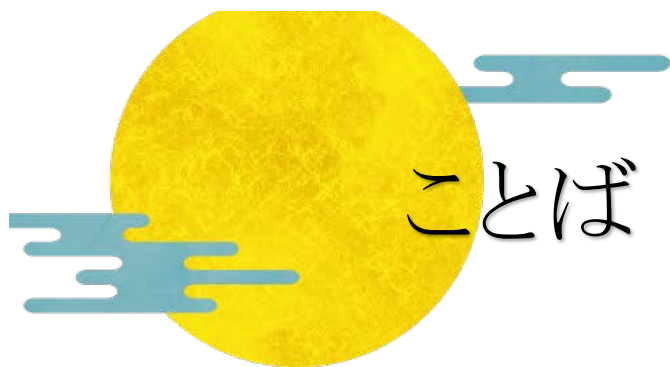
『そうだ、キャンプいこう！ ひとりでも、女子でも、はじめてでも。』
こいし ゆうか//著, スタンダード・プレス, 2018年, 978-4-866-36262-5

こちらはキャンプとは少し違いますが、山でのお泊りを紹介した本です。山小屋に泊まったり、山でテントを張ったりして、安全かつ快適に過ごす方法が書かれています。山でゆっくり過ごす時間は格別で、行ってみたくなる方も多いはず。

『山でお泊まり手帳 How to 山小屋泊テント泊』
仲川 希良//著, 柊出版社, 2018年, 978-4-7779-5120-8

家族でキャンプに行こうと考えている方、こんな本はいかがでしょう？満点の星空の下、星座を探したり、星空を写真に撮ったり。家族みんなの思い出に残るキャンプになりそうです。

『子どもと一生の思い出をつくる星空キャンプの教科書 星の降る絶景キャンプ場 25 スポット+α』
G.B., 2018年, 978-4-906-99354-3



百聞は一見にしかず



難しい言葉を聞いて「？」になること、ありませんか。金字塔、差し金、几帳面…言葉は知ってるけど、それってもともとどういうもの！？考えれば考えるほど泥沼にはまっていき、しまいには夜が明けてしまう…。

そんなあなたはぜひこの本を。なんせ、一目でわかってしまうのですから。何を言ってるんだ？と思われる方は、ぜひページをめくってみて下さい。百聞は一見にしかず…。

「目でみることば」シリーズは全3巻刊行されています。

『目でみることば [1]』

おかベ たかし//文, 東京書籍, 2013年, 978-4-487-80787-1



こちらはいかが？

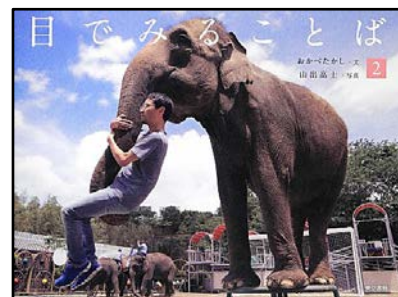
続刊も同様に、言葉の由来が目で見えてわかるように紹介されています。
1巻を面白いと思った方は、2巻・3巻もぜひ。

『目でみることば [2]』『目でみることば [3]』

おかベ たかし//文, 東京書籍,

[2] 2013年, 978-4-487-80837-3,

[3] 2014年, 978-4-487-80890-8



ちょっと待って、その言葉主語が大きくない？



読解力を身に付ける国語力養成本なのですが、4章『これからの時代に欠かせないリテラシー』が印象的でした。

女性が夫に対して「男って、どうしてここまで気がきかないん？」から始まるツイッターでの愚痴のつぶやきを例に挙げ、自分の夫の話を男と一般化する危険性とそれに伴う炎上リスク等を解説し、もし愚痴をつぶやくにしても「男」から「夫」にした方が余計な諍いが起こらない等と丁寧に添削しており、ネットでのリテラシーを学ぶには入門書として最適な一冊です。

『大人に必要な「読解力」がきちんと身につく読みトレ』

吉田 裕子 // 著, 大和書房, 2018 年, 978-4-479-79666-4



古典にみる「にほひ」の世界



源氏物語に代表される古典文学の中には、貴族たちが「薫物（たきもの）」と呼ばれる香をたくことで、匂いを衣服や部屋に移す文化が、古代～中世日本にあったことを伺わせます。

この本では「古事記」「日本書紀」「万葉集」といった古文献の分析などから、日本の香の文化を知ることができます。古典文学に描かれた、いにしへの香りの文化について、思いを馳せてみませんか。

『いにしへの香り 古典にみる「にほひ」の世界』

樋口 百合子 // 著, 淡交社, 2012 年, 978-4-473-03816-6



26 人の作家と出会うお散歩エッセイ

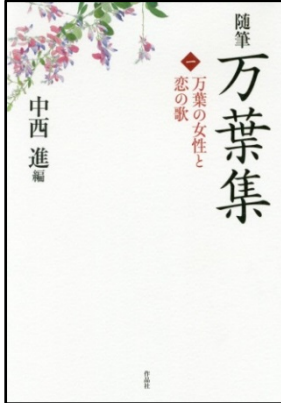


お墓まいりで、現代の作家が昔の作家に会いに行くという形を取りながら、文豪たちの作品や生き様を作家ならではの感性で紹介しています。読んだ事のある作品は、もう一度、そうでない文豪の本は、ぜひ読んでみようと思わせてくれます。

『文豪お墓まいり記』

山崎 ナオコーラ // 著, 文藝春秋, 2019 年, 978-4-16-390970-7

太古の時代に思いを馳せて…



万葉集の歌一首一首に込められた思いとその背景を著名な歌人、文学者が解説し、万葉集研究の大家・中西進氏が編集されています。太古の時代に思いを馳せて…。

『随筆万葉集[1] 万葉の女性と恋の歌』

中西 進//編, 作品社, 2019 年, 978-4-86182-764-8

全ての母親に感謝をこめて！



心の中では、お母さんへ伝えたい言葉がたくさんあるのに近すぎて照れくさくてなかなか言えない。みんなそれぞれに思っている「ありがとう」を伝えなかった気持ちがこの1冊にこめられています。涙があふれ、何度でも読みたくなる本です。プレゼントにも良いと思います。

『母親というものは』

葉 祥明//著, 学研, 2006 年, 4-05-403030-0

日本の小説・ノンフィクション

有りそうで無さそうな、無さそうで有りそうな話



広告会社の営業課長が、突然リストラされ単身赴任に！赴任先は、廃店の危機！さらに取引先との広告誤植に巻き込まれ、責任を負わされることに……。ところが、その責任の取られ方が尋常ではなかった。ちょっとコワイ人たちとの命懸けの毎日！奇想天外な展開の連続で、一気に読みせずにはいられない。

『Iターン』

福澤 徹三 // 著, 文藝春秋, 2013 年, 978-4-16-783841-6

こちらもいかが？



左遷先から本社へ凱旋した主人公を待ち受ける苦難の連続。2巻もやっぱり崖っぷち！

『Iターン[2]』

福澤 徹三 // 著, 文藝春秋, 2019 年, 978-4-16-791295-6



冬におすすめの本



雪の降る寒い朝、ぼくの部屋に舞いこんだ小鳥ちゃんとぼくとぼくの彼女のお話。気が強くてしっかり者だけど、淋しがりやの小鳥ちゃんとぼくの会話が楽しく、優しい気持ちになれるお話です。

『ぼくの小鳥ちゃん』

江国 香織 // 著, 新潮社, 2001 年, 4-10-133918-X

家族の物語



今年の春、テレビドラマ化され興味を持ち、原作を読みました。学習塾業界を舞台に、昭和 30 年代から平成にかけて親子 3 世代にわたり奮闘する家族の物語です。

塾経営や学校教育など戦後の日本における教育の実態を浮き彫りにしています。長編で 467 ページありますが、物語に引き込まれて一気に読むことが出来ました。「学校」とは「塾」の役割とは何か。教育については考えてみる良い機会になった 1 冊です。

『みかづき』

森 絵都 // 著, 集英社, 2016 年, 978-4-08-771005-2

高度成長期、古き通産官僚達の理想の人事を巡る物語



旧通産省の豪傑キャリア官僚「風越信吾」は自らの理想の通産省を形作るべく、大臣官房秘書課長として人事カードを動かしていくところから物語はスタートしていきます。ただ、決して風越は自らの人事については手を加えず、また人事カードをゲームのように動かすのではなく、あくまで自らの通産省での理想の行政を行うべく人事カードを操っていく。しかし、その結末は…

今の時代には当てはまらない所も多いですが、国家公務員の世界に興味がある人、国家公務員を目指す人は一読の価値あります。

『官僚たちの夏』

城山 三郎 // 著, 新潮社, 2002 年, 978-4-10-113311-9



大正生まれのお草（そう）さん、「おばあちゃん」とは呼ばれません。小粋で好奇心旺盛で珈琲店を切り盛りしています。

紅雲町珈琲屋こよみシリーズは2019年6月に最新刊（第7巻）が出ました。日々をていねいに、たのしく暮らそうとする姿勢に、いつまでも「小蔵屋」がつかましますようにと、次回作が待ち遠しくなる作品です。

『紅雲町ものがたり 紅雲町珈琲屋こよみ[1]』

吉永 南央 // 著, 文藝春秋, 2008 年, 978-4-16-326650-3



お草さんが巻き込まれる事件や、小蔵屋で起こる出来事を綴った同シリーズ。続きが気になった方は、2巻以降もお手に取ってみてください。珈琲店の穏やかな営みが垣間見えて、ほっと一息つける物語です。



『黄色い実 紅雲町珈琲屋こよみ[7]』ほか

吉永 南央 // 著, 文藝春秋, 2019 年, 978-4-16-391042-0



主人公・加納慎策は売れない劇団員。総理大臣そっくりの容姿に目をつけられた彼は、突如総理大臣の代理を任されることになった。加納は政治の知識がなかったが、自分の理想や友人の助言を基に、閣僚や野党、官僚と戦った。そして総理代理が軌道に乗ってきた矢先テロが発生した。政治素人の加納が下した決断とは！？

この本を読んだあと、なんだかスッキリした気持ちになりました。もし自分が総理の代理をやることになったらどうするか考えてみるのもおもしろいかもしれません。

『総理にされた男』

中山 七里 // 著, NHK 出版, 2015 年, 978-4-14-005670-7

長い夜に一冊どうぞ。



新元号から早 8 ヶ月、初めてのお正月を迎えました。私たちは何かと忙しい現代人ですが、内田百閒は大正から昭和にかけて活躍した作家です。少し前の作家ですが、文章は読みやすく、日常生活でありながら現実とは思えない不思議な世界へ私たちを連れて行ってくれます。

山蟻（人間と見間違える）、孤（みなしご）、生まれなかった兄（百閒は一人っ子）、亡くなった父の声、友人が亡くなる二日前の話（芥川龍之介がモデルとも言われています）、戦時中にひたすら食べたいものを列挙した話…。

お金は無いが、美味しいものと列車が大好きな百閒ワールドへ、あたたかい飲み物など飲みながら、ゆっくり浸ってみてはいかがでしょうか？

『内田百閒 001 1889-1971』

内田 百閒 // 著, 筑摩書房, 2007 年, 978-4-480-42501-0

歌舞伎町を舞台とした、男たちの非常な世界



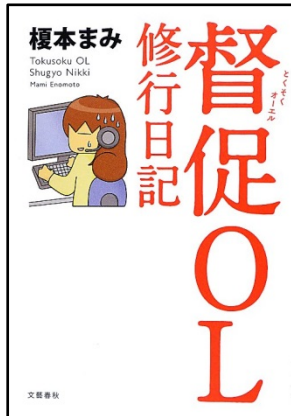
舞台は 90 年代な雰囲気のある歌舞伎町。殉職した父の死の真実を見つける為に田舎からやって来た純朴な青年が欲望渦巻く歌舞伎町で狩人のごとく動き回る。歌舞伎町のヤクザ、マフィア、警察、闇金融を巻き込んだ大戦争を引き起こす。濃いキャラの思惑のぶつかり合い。狩人に見立てられた主人公は終盤狩られる側に。

さすがハードボイルドの大御所！迫力ある格闘シーンに粹なセリフが刺さってくる。

『北の狩人[上]』『北の狩人[下]』

大沢 在昌 // 著, 幻冬舎, 1999 年, 4-87728-761-2[上], 4-87728-762-0[下]

債権回収 OL の苦難

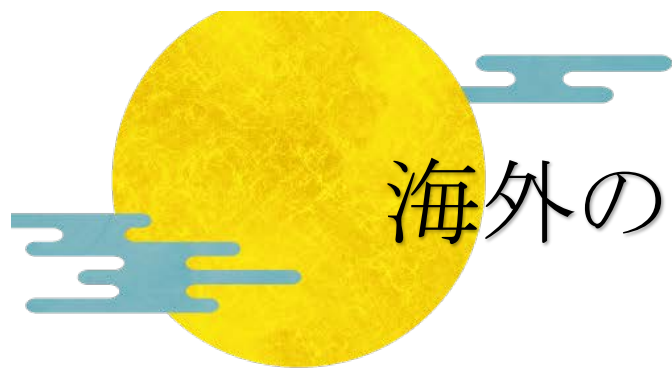


新卒で信販会社に入社し、支払遅延顧客への督促を行うコールセンターに配属された著者の修行のような日々が描かれている本です。人に強くものを言えず入社時はまったく成績が出せなかった著者が、後には年間 2000 億円の債権を回収するまでになった方法とはどのようなものなのか。

著者が督促の仕事から学んだ、頼みづらいことを頼んだり、断りにくいことを断るコミュニケーションテクニックも必見です。

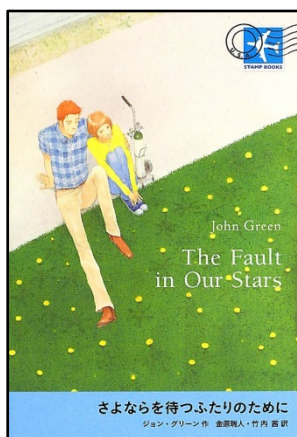
『督促 OL 修行日記』

榎本 まみ // 著, 文藝春秋, 2012 年, 978-4-16-375650-9



海外の小説

「君に心を傷つけられるのは、おれの特権なんだから」



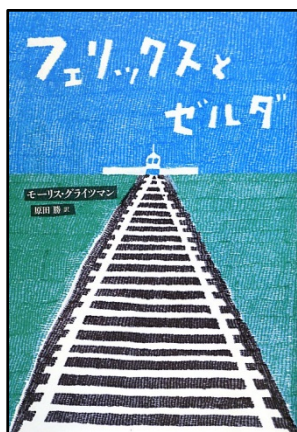
困難があると愛情が燃え上がる…なんてよく言われますが、そんな言葉が陳腐に聞こえるほど、限りなく人間臭く、限りなく透明で、深い深い愛情。

16歳のヘイゼルと青年オーガスティス。お互いにガン患うふたりは、常に死と向き合いながら、お互いの生と、愛情を確かめ合います。こんなにも悲しく、深い愛情があるのかと、心が動かされます。映画化もされた本作。ぜひ読んでみてください。

『さよならを待つふたりのために』

ジョン グリーン // 作, 岩波書店, 2013年, 978-4-00-116405-3

知恵と勇気と幸運と



10歳の少年フェリックスは、両親を捜すたびに出ます。1942年ナチス占領下のポーランド。戦火の中で何度も落胆を経験しながらも、希望を失わず生きていきますが、やがて辛い現実と向き合うことになります。物語を読む私達も、はらはらドキドキしながら彼を応援していきます。

『フェリックスとゼルダ』

モーリス グライツマン // 作, あすなろ書房, 2012年, 978-4-7515-2224-0

アメリカはなんでも自由の国ではありません？！



2006 年、アカデミー賞の三部門を受賞した映画「ブロークバック・マウンテン」の原作です。作者が地元ワイオミング州の自然保護団体から、短編集の執筆依頼を受けたのをきっかけに生まれ、雑誌「ニューヨーカー」にも掲載されました。雄大な自然を背景に、二人のカウボーイのセクシャルマイノリティについて、20 年にわたる交流と苦悩を描いた作品は大きな反響を呼び、1998 年の全米雑誌賞と O・ヘンリー賞を受賞しています。

『ブロークバック・マウンテン』

アニー プルー // 著, 集英社, 2006 年, 4-08-760497-7

練られた構成が衝撃を呼ぶデビュー作



『その女アレックス』の主人公、カミーユ・ヴェルーヴェン警部が活躍する著者のデビュー作。日本ではシリーズ 2 巻目の『その女アレックス』が先行して有名になりましたが、1 巻目である『悲しみのイレーヌ』も数々の賞を受賞した衝撃作です。ミステリ作品をなぞって繰り返される殺人事件、犯人を追う警部たち。本当に追い詰められているのは、犯人なのか警部なのか・・・第 1 部を読み終えた時の驚きは、ミステリ好きならきっと嬉しく思うはず。

『悲しみのイレーヌ』

ピエール ルメートル // 著, 文藝春秋, 2015 年, 978-4-16-790480-7

こちらもいかが？



ヴェルーヴェン警部シリーズは 3 部作。いずれも緊迫したストーリー展開で、一気に読み進められる作品です。番外編もあります。

第 2 作『その女アレックス』

ピエール ルメートル // 著, 文藝春秋, 2014 年, 978-4-16-790196-7

第 3 作『傷だらけのカミーユ』

ピエール ルメートル // 著, 文藝春秋, 2016 年, 978-4-16-790707-5

番外編『わが母なるロージー』

ピエール ルメートル // 著, 文藝春秋, 2019 年, 978-4-16-791360-1



図書館員のおすすめする一冊（令和元年度版）

令和2年1月発行

編集・発行 松戸市立図書館

〒271-0092 千葉県松戸市松戸 2060

TEL 047-365-5115